

16世紀宗教音楽のレトリック

講師／辻 康介 つじ こうすけ

歌手、ソルミゼーション講師。聖グレゴリオの家、フォンス・フローリス古楽院、コーラス・カンパニーで教える他、日本合唱指揮者協会、日本合唱連盟、日本コダーイ協会などに招かれた。イタリア初期バロック音楽を中心に様々な音楽を歌う。国立音楽大学楽理科卒、同大学研究所研修課程終了、ミラノ市立音楽院バロック声楽科修士課程終了。声楽を牧野正人、クラウドディオ・カヴィーナ、ロベルト・バルコーニらに、ルネサンス・ポリフォニーの演奏法と古楽の演奏理論をディエゴ・フラテッリらに師事。合唱団 Ogmios 指揮者、聖心女子大学グリークラブ常任指揮者。日本コダーイ協会会員。

【ソルミゼーションと旋法を手がかりにルネサンス音楽の表現を探る】

内容 このゼミナールでは、パレストリーナやヴィクトリア、ラッスス、ヴィラールトといった16世紀の作曲家の宗教音楽を歌います。様々な合唱団などではおなじみなルネサンス・ポリフォニーは、準備無くなるとなく歌い始めると、美しいはずなのに練習には苦労が多いわりに、最後まで混沌とした姿をしていたり、どこかずっと退屈だったりします。でも、本当のところ、バロック音楽を準備しているこれらの音楽は、旋律や構成が明確で、言葉を雄弁に形にしており、これは宗教音楽も例外ではありません。ミケランジェロの絵画や彫刻を思い出してみましょう。そんなポリフォニー音楽を実際に合唱で形にしてみるのがこのゼミナールです。が、急がば回れ、2時間の講座のうち、最初の30分は理論編です。ここでは、当時の人達が譜読みをする際の基礎の基礎であったソルミゼーション(古式6音階名唱)と、旋法、とりわけ8教会旋法を概観し、さらには対位法の理論にも触れます。こうした基礎理論を身に着け、楽譜に向き合ってみると、ルネサンス音楽の限りなくカンタービレで劇的な姿、つまり、作曲家たちが歌詞をどんなふうに朗読しながら曲を書いたのかがわかるのです。ソルミゼーションの知識がない人も参加できますし、すでに学んでいる人には実践講座として貴重な体験になるでしょう。

日程：2023年10月21日、11月18日、2024年1月20日、2月17日、3月2日、3月16日
4月6日、4月20日、6月1日、7月6日

時間：13:00～15:00

※日程がやむを得ず変更になる場合があります。

受講料：全10回 40,700円(税込み)

申込締切日 10月6日(金)

聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所

電話: 042-474-8915 電話受付 9:00～17:00

FAX: 042-474-8832 (土日祝祭日お休み)

〒203-0004 東京都東久留米市氷川台 2-7-12

<https://st-gregorio.or.jp>

※オンライン授業はありません。

※受講者が6名に満たない場合には開講しません。

2023年度 16世紀宗教音楽のレトリック 申込書

2023 年 月 日

フリガナ		ご職業	
お名前			
ご住所	〒		
電 話		FAX	
Email	※メルマガの配信を(希望する・しない)		
所属教会	緊急連絡先 突然の休講や緊急のお知らせをする際の連絡の取れるメールアドレス、又は電話番号を必ずご記入ください		
音楽歴 その他			